



戸塚小学校だより

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町132

TEL 881-0049・6461

Eメールアドレス y3totuka@edu.city.yokohama.jp

FAX 881-9804

オタマジックシたくさんいるよ

校長 鈴木陽一

「なにかいるの。」8組の教室の前を通りかかると、バケツの中を覗き込もうとしている子がいました。窓際にバケツが並んでいました。はじのバケツを覗くと水しか入っていません。

「それは、汲み置きの水だよ。」隣のバケツを見るとオタマジックが入っていました。「中庭のオタマジックだね。」しばらく、餌を食べるために上がったり下がったりしている様子を一緒に眺めていました。

先日、日本ウェルネススポーツ大学教授の近藤卓先生の『自尊感情』についての講義を拝聴する機会がありました。近藤教授は、自尊感情を、「社会的自尊感情」と「基本的自尊感情」に分けられて、次のように定義されていました。

社会的自尊感情・・・**すごい自分・優越感・人より優れている・他者との比較**

→やる気を生み出す感情

基本的自尊感情・・・**ありのままの自分・他者との比較ではなく、絶対的、無条件、**

根源的で永続的である感情 →どんな時も支える感情

社会的自尊感情は、ほめられて大きくなる心であり、それを維持するためには、常にほめ続けなければ縮んでしまうのだそうです。（熱気球に例えていました。）しかし、基本的自尊感情は、共感体験で培われるもので、薄紙に糊をしみこませたものを積み重ねていくようなものだそうです。積み重ねて厚みを増していくものと定義されていました。そして、この基本的自尊感情を土台として社会的自尊感情がのっていると定義されています。

学習やスポーツでは、ほめて伸ばしていこうとし、やる気を引き出そうとします。しかしそれを支える、「ありのままを自分」を大切にす気持ち（基本的自尊感情）が土台にないと壊れやすい自尊感情となるそうです。では、基本的自尊感情を育てるには、我々大人はどうしたらよいのでしょうか。まずは、子どもと並ぶ、子どもに寄り添って同じものを見るのがよいと話されていました。私たち教員には、一緒に笑ったり泣いたりする共有体験ができる、感情が動く授業をぜひ行ってほしいと締めくくられました。

十連休が始まります。お子様と、普段なかなか経験できない共有体験をしてみてください。日常の中での何気ないことを一緒に並んで眺めたりやってみたりするのもよいのではないのでしょうか。

「ありのままの自分を大切にす。」そのような子どもを育てていけるよう教職員一同さらに尽力して参ります。ご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。